

令和 6 年度事業報告

1 事業の概要

- ① 経営の安定に向けて、全事業の稼働率向上を目標とし、具体的な改善策の実践を行った。特養、ショート、デイ、福の木等の事業については、改善が図れ、事業収入の増加に繋がった。
- ② 高騰する電気代や給食材料、各種備品に対し、介護保険料の見直しが適正に行われていない現状の中で、カーボンニュートラルの実現という切り口から、環境への配慮を行い、社会に向けてのイニシアティブを高めると共に、年間 6 百万円程度電気代を抑えることができた。
- ③ カーボンニュートラルの実現で、太陽光発電や蓄電池システムなどを導入したため、災害に強い施設創り（施設強靱化事業）をより推進することに繋がっている。
- ④ 定年制を 70 歳としたことや、無資格者や高齢者が参入できるよう介護の仕事内容をシェアし、ハローワーク等を通じて周知を図るなどの取り組みにより、人材不足を補い介護の質を担保することが出来た。また、これらの高年齢者雇用の先進的な取り組みが評価され、県内外からのアクセスが増えている。
- ⑤ 介護が重労働でないだけでなく、科学的な介護が行われる新しい時代の介護の基盤を整備するため、ノーリフティングの様々な器具の検討や科学的データの採れる眠りスキャン等の ICT 導入を段階的に行った。
- ⑥ 法人のもつノウハウを地域に還元し、地域に貢献する『地域貢献事業』の内、市民講座は年 3 回に縮小し実施した。地域住民のライフラインとなっている毎日型配食サービスは継続し、地域の要援助高齢者の生活を支えた。
- ⑦ ご家族と入所者の繋がりを継続するために外出・外泊支援等を再開した。
- ⑧ 愛誠会のコンセプトとして掲げる自立支援やプライバシーの完全保護を実践するとともに、新しい時代の特養におけるケアを創り上げるために、職員教育、各種会議・委員会を通して、つむサポ支援という愛誠会独自の取り組みを始めた。
- ⑨ 開かれた信頼される経営を目指し、広報紙『じょいふる』を通して施設の取り組みや日々の様子をご家族はもとより地域や関係者に発信するとともに、アンケート調査を実施し、高評価を得ることができた。
- ⑩ 事業所内託児施設の運営等職員の子育て支援に努力し、子育て応援企業として内外に啓発を行うと共に、ワークライフバランスへの取り組みについても維持継続し、職員の労働環境の改善や福利厚生を充実させた。

2 事業報告

(1) 特別養護老人ホーム唐松荘

- ア 利用者主体の質の高いサービス提供を実施するため、プロジェクトA、プロジェクトBをはじめとする各種研究研修会議、QC会議を毎月開催し、サービスの自己評価やケアサービスの質向上に努力した。
- イ 職員の倫理教育に努め、利用者の人権を尊重、プライバシーの保護、自立支援、自己決定に基づく生活形成が援助できるよう、ケアプランの充実とそれに基づくケア提供の徹底を図った。
- ウ 利用者や家族と常に対話を持ちながら、利用者側の意志や希望を十分反映したケアに心がけ、信頼関係の確立に努めた。
- エ iPadを活用し、オンライン面会やラインでの情報提供など、ご家族と距離が開かないよう、また安心につながるよう努めた。
- オ 感染症の予防についての研修を充実させ、職員へ周知徹底し予防に努めた。特に新型コロナウイルス対策に努めた。
- カ ユニットケアの充実と、利用者の快適な生活環境の整備に努めた。
- キ ケアノワ委員会によるテレビ番組を毎月作成し、利用者主体の情報提供が、利用者の生活の広がりとし豊かさを高めた。
- ク 毎日型食事サービスを365日実施し、地域の高齢者の生活を支援した。
- ケ 災害時における拠点施設としての機能強化に努めた。

(2) 唐松荘ホームヘルプステーション

- ア ケアプランに沿ったサービス提供体制の充実を図った。
- イ 利用者に誕生日のプレゼントを贈るなど、心のこもったサービス提供に努めた。
- ウ 関連機関との連携の強化を図った。
- エ レスパイトケアの充実を図った。
- オ 内部研修や個別研修を充実しヘルパーの資質向上に努めた。
- カ 職員体制を充実させ安定した運営に努めた。

(3) 唐松荘短期入所生活介護事業所

- ア 利用者の実態に合わせた送迎サービスや柔軟(曜日・時間制限なし)な受入れを行い利用促進を図った。
- イ 関連機関との連携の強化を図った。
- ウ 認知症高齢者の受け入れに努力した。
- エ 専用ベッドのみでなく空ベッドを利用し、増加するニーズに対応した。
- オ 介護者との連携を密にし、施設と在宅とが一体となったケアや健康管理の実践に努めた。

(4) 唐松荘デイサービスセンター

- ア 重介護利用者の利用促進を図った。
- イ 年間利用者は一日平均27.8人の実績があった。
- ウ 季節行事や趣味活動を充実させ、変化のあるサービスの提供に努めた。
- エ 地域の高齢者の健康づくりを目的として行っている唐松荘デイサービスセンター杯グランドゴルフ大会を11月17日に実施し217名の参加者があった。
- オ 個別処遇サービスプランを作成し計画に沿ったサービスの提供に努めた。
- カ 認知症高齢者・独居世帯高齢者の急増に対し、家族・ケアマネージャー・関係機関との連携強化に努めた。

(5) 居宅介護支援事業所

- ア 地域の高齢者の実態把握や福祉サービス情報の提供等により、福祉サービスのスムーズな利用促進に努めた。
- イ 介護支援専門員3名体制により、介護支援サービスの充実に努めた。
- ウ 地域住民へのきめ細やかなニーズ対応を通して、業務への理解と信頼を深めることに努力した。
- エ 介護保険者（市）の訪問調査を受託し、制度の推進に協力した。

(6) グループホーム心

- ア 入院者がいたものの常時満床の運営となった。
- イ 職員の倫理教育に努めるとともに認知症介護の専門性を高めるため毎月研修を行い、利用者の人権を尊重、プライバシーの保護、自立支援、自己決定に基づく生活形成が援助できるよう、ケアプランの充実とそれに基づくケア提供の徹底を図った。
- ウ 利用者や家族と常に対話を持ちながら、利用者側の意志や希望を十分反映したケアに心がけ、信頼関係の確立に努めた。
- エ 運営推進会議を2月に1回開催し、地域に密着した施設運営に努めた。

(7) 小規模多機能型居宅介護事業所 福の木

- ア 小規模多機能施設の機能を活かしたケア実践やサービスの在り方を研究しケアに活かすとともに認知症介護研修を行い、ケアの質を向上させることができた。
- イ 利用者の様々な障害に応じ、自立支援を試みながら在宅生活の継続につながるよう取り組んだ。
- ウ 家族とのコミュニケーションを充実させニーズを把握すると共に、家族の介護負担の軽減を図り、家族支援の機能を強化した。
- エ 運営推進委員による外部評価を実施し、より具体的な課題を明確にする

とともに、発展的取り組みの起点とすることができた。

オ 運営推進会議を中心に地域との情報交換を行い、繋がりを強化した。

(8) ひだまり園（事業所内託児施設）

ア 乳幼児個々の保育計画、年齢別保育計画、年間計画等に基づき、適切で密度の濃い保育に努めた。

イ 家庭と連携し、乳幼児の健康管理・成長状態についての把握、指導に努めた。

ウ 遊具の安全、衛生等の環境整備に努めた。

エ 母体施設の行事に積極的に参加し、高齢者との交流に努めた。

オ 新型コロナウイルス予防対策の強化を図った。

令和 7 年 6 月 1 0 日提出

社会福祉法人 愛 誠 会
理事長 渡 部 勝 吉